

地域特産品開発 白河高原ベジラスク 完成しました

福島県白河市は那須連峰の裾野に位置して、冷涼な気候の中お米や野菜が作られているみちのくの玄関で、東北新幹線的那須塩原の次の駅です。

今回、弊社がトータルプロデュースした「白河高原ベジラスク」は地元の米粉を入れたバケットに、地元のトマトなどを使った塩味のおつまみベジラスクです。味は3種でバジルトマト、ソルトパンプキン、ガーリックほうれん草が3枚ずつ入っています。

白河らしいお土産品を作りたい、白河がお米と野菜の産地だと知ってもらいたいという地元の願いからスタートしたこの商品作りは、観光客だけでなく、ビジネス出張者やゴルフ場来訪者が多い地域性を踏まえて、そういったターゲットの方達にも買っていただけるような商品に仕上げました。最近はお土産品＝スイーツという概念にとらわれない商品が各地で多くなってきました。時代のニーズ、地域性などを加味した開発が重要です。

先日、東京日本橋のふくしま館ミデッテでラスクの販売会がありました。私もかけつけましたが、お客様がかごに入れてお買い上げいただく光景を見ていると、商品開発中に討議を重ねてきた関係者の皆さんの顔が浮かび、形になって世の中に出た喜びと多くの方々に愛される商品であり続けて欲しいと感じました。

